技術士 1 次試験に合格して

石井　健太
（いしい　けんた）

勤務先
株式会社 野生生物総合研究所
〒001-0017　札幌市北区北十七条西4丁目3番3号
TEL　011-700-6737　　FAX　011-700-6738
E-mail　ken@wildlife.co.jp

■ 専門：環境部門

1. 自己紹介

私は東京で生まれ育ち、街中の小さな自然の中で生きものと接することを楽しんでいました。趣味は木登りをして、普段見ることのない景色から生きものと触れることで新発見があります。

ある時、地元の周辺地域で見たり触ったりしていた身近な動植物種は、主にペット放棄から生まれた外来種問題など、ヒトと野生動植物、生態系中で多面的な課題を抱えており、その数と問題の根深さに驚愕しました。次第に、社会環境を考えながら動植物を調べることに、その面白みと重要性を強く感じていきました。

大学では環境系の学科に進学し、動物生態学に興味を持ち、環境生態学、野生動物管理学のゼミに所属しました。現在は生物調査に携わり、両生類・爬虫類・哺乳類を担当しております。

2. 受験に至るまで

学生時代に“技術士”資格を初めて知りました。当時、受験資格の職務経験年数を意識してしまい、入社一年目も受験はまだまだ先のことだという気持ちを持っていました。

しかし入社後、日に日に技術士の必要性について改めて再認識する機会が増大していました。そこで、今回初めて受験を決意しました。

3. 受験体験

試験対策は基礎・専門科目の一年分を解きましたが、恥ずかしながら大半の問題がわかりません。特に絶望的だったのは基礎科目で、文意が理解出来ない方が多く、大変苦労しました。

まず高校・大学の教科書、資料などを引っ張り出し、図書館で参考になりそうな書籍や雑誌を借りてきては、一から基本を学び直しました。同時に過去問題集などを購入し、問題を繰り返し行いました。最初は絶望的に思えた問題も理解すれば解けるようになり、徐々に問題慣れを実感出来る機会がでてきました。

また、インターネットにおける検索機能や練習問題の学習により、不明箇所を簡単に調べることが出来たため、ストレスも比較的に少なかったと感じます。試験対策向けのホームページも大変参考になりました。

合格は遠いと幾度となく諦めを感じていましたが、関連しそうな新規情報に対しては、出来るだけアンテナを張り続ける意識をしました。日々の学習の中で専門科目は自然と何問か理解出来る問題が増えてきました。

4. 今後に向けて

技術士試験では自己理解、及び勉学をするよいきっかけとして大変重要なものになりました。自らの知識不足を思い知り、これから技術士を目指すべく修習に励む気持ちを新たにしました。同時に専門以外の他分野に関しても幅広く興味関心を持って学び、専門分野への技術と理解をより一層深めていきたいと思います。

これからは業務に対して、既存及び修習した新しい技術を適時正しく判断し、利活用できる一人前の技術者を目指します。二次試験合格を目指し、日々精進し、勉強を継続していこうと思います。

加藤　史広

（かとう　ふみひろ）

勤務先

王子エンジニアリング 株式会社

苫小牧事業部　営業技術部

〒053-0027　苫小牧市王子町2丁目1番1号
TEL　0144-32-0204　　FAX　0144-32-0267
E-mail　humihiro-kato@oji-techno.ojipaper.co.jp

■ 専門：機械部門（機械設計）

1. 自己紹介

私は南空知の田舎町に生まれ育ち、中学卒業と同時に高専に入学するため苫小牧へ単身移り住みました。幼少期より趣味は機械いじりで、小学生の頃は機械の分解・組立に明け暮れ、中学時代に内燃機に目覚め、高専時代は主にモータースポーツや乗り物の改造に没頭し、自他共に認める機械オタクでありました。中学時代からの夢が「機械の設計屋」になることであり、現職も学生時代の就職活動中に設計業務の求人であったため、迷わず選択しました。

業務内容は紙パルプ業界における各種機械、プラント設備及び一般産業機械、荷役運搬機械等の設計を行っており、特に狭小空間における一品ものの機械装置を多数担当してきました。

2. 受験に至るまで

私が技術士資格を知ったのは入社間もない頃で、機械の技術者が取得できる最高峰の国家資格ということもあり、当初は憧れを抱くことしかできませんでした。しかし実務経験を積むうちに、徐々に自分が行っている業務が技術士試験にも通用するかもしれないという思いが芽生え始めました。

実際に技術士の方々がどのような方面でご活躍されているのか調べた結果、建設部門の方が多数を占めていましたが、機械部門の方々も多方面でご活躍されていることを知り、技術レベルの底上げのためにも受験に踏み切りました。

3. 受験体験

実際に試験勉強を始めてみると、最初の難関は共通科目でした。私は最終学歴が高専で、試験科目の免除に該当するような国家資格も保有していなかったため、共通科目は避けては通れない道でした。選択した科目は数学と物理だったのですが、実際に練習問題を解き始めてみると実務からはかけ離れた、まるで大学受験のような問題ばかりで愕然としました。技術士第一次試験対策本（以下、対策本）も多くは基礎、適正ばかりで、結局共通科目の対策は大学入試練習問題と学生時代の教科書で一から勉強をやり直しました。

その甲斐もあり、基礎科目は対策本を中心に円滑に勉強を進めることができ、工学の基となる数学と物理の大切さが身にしみました。

適正科目につきましては、常日頃から社内でも企業倫理に対するOJTが盛んに実施されていますので、技術者倫理の面では非常に助かりました。また、製造者責任法（PL法）やリスク管理なども、普段の業務において心がけている内容であるため、一番馴染みやすかったかもしれません。

専門科目も共通科目と同様に、対策本が圧倒的に少なかったので、過去問題を中心に独学で進めました。ただし共通科目と比較すると、その内容のほとんどが実務に則した基礎的な問題であったため、日頃の業務の復習もかねて進めることができました。

共通科目で出鼻をくじかれましたが、なんとか無事に技術士第一試験合格証を手にすることができました。

4. 今後に向けて

一次試験合格の流れにのって、2011年度（平成23年度）技術士第二次試験合格に向け目下邁進中でありますが、技術士となった暁には自己研鑽を怠ることなく、技術力の向上を図り、少しでも今後の日本経済を支えていける存在となれるよう、頑張っていきたいと思います。

伏見　絵里
（ふしみ　えり）

勤務先
北海道
環境生活部環境局環境推進課
〒060-8588　札幌市中央区北3条西6丁目
TEL　011-231-4111（内線24-284）　FAX　011-232-1301
E-mail　fushimi.eri@pref.hokkaido.lg.jp

■ 専門：上下水道部門

1　自己紹介

道庁で水道行政を担当しております。

水道事業は市町村を中心に行われるため、道として独自に浄水場を持つなどといった形で水道に携わるのではありませんが、立入検査や補助金の検査のような指導監督的な面と、効率的な施設整備・事業運営に係る助言や協力を担う立場など、さまざまな役割があります。

仕事柄、道内各地の水道施設を見てまわり、抱える課題や施設について見聞きした上で、そこで働く多くの方々のお話を聞く機会に恵まれました。

これまでは、水道以外にも、環境保全、廃棄物対策、原子力といった分野に関わってきました。始めはそれぞれを単体で捉えていましたが、いくつか経験するうちに、拡がりやつながりを感じるようになるのが興味深いところです。

例えば、東日本大震災では、地震の直接の被害に加え、原発事故による放射能汚染も大きな問題となり、水道に関しても、周辺地域や関東地方で摂取制限が行われる事態にまで至りましたが、道内の水道水の安全を考える上で、過去に泊発電所周辺の環境中の放射線分析や空間放射線の監視業務をしていた経験がとても役に立ちました。

広い視野を持って仕事をする重要性や、配属される先々で身につけていく知識がその後も生かされることなどを実感する今日この頃です。

2　受験体験

10月の一次試験受験に向け、新年度に入ったあたりから、計画的に勉強を進めようと心がけはしたものの、やはり日常業務との両立は厳しいものがありました。

そのような中、2010年（平成22年）は、道内では7～8月に局地的な大雨が多発し、その影響で、日本海側を中心に水道施設の被害や断水事故が相次ぎました。

事故への対応と、その後の災害復旧補助の査定に向けた準備や対策に追われ、試験直前はほとんど勉強ができませんでした。

よほど受験をあきらめようかとも思いましたが、今後のことも考えると、せっかくの機会をこのままただ逃すよりは、経験しておくだけでもムダにはならないだろうということで、試験当日朝まで迷った末に会場に向かいました。

今思うと、やれるうちに勉強を進めておくことは本当に重要ですね。早い段階でざっと全体をひととおり見渡して雰囲気をつかんでおき、徐々に掘り下げた学習をしていく、というのが効率的でしょうか。

3　今後に向けて

技術士の試験に関しては、まだ道半ばですので、2次試験に向けて取り組んでいきます。

試験を受けることにしてよかったと思うのが、日常業務への意識が変わったことです。業務を業務として捉えるよりは、試験にも関連した知識や情報の収集と考えると、一つ一つの仕事に幅や奥行きを意識するようになりました。また、できるだけ多くの人と話す機会を持ち、情報交換することも、以前に増して有意義に感じています。

試験自体は楽しいものではありませんが、受験までの過程を充実させ、ときに楽しみながら勉強していくことで、その先の自分の成長の糧にできればと思っています。